



### 【1】 一種研開催報告

2025年3月18日から19日にかけて、秋田アトリオンにおいて、A・P研究会の一種研が開催されました(写真1)。

今回のA・P研究会では、フレッシュドクターセッション若手招待講演4件、チュートリアル講演1件、A・P研究会歴史チュートリアルワークショップ1件、A・P研/IEEE AP-S Tokyo Chapter共催特別講演1件、一般講演10件の、計17件の発表が行われました。



写真1 研究会の様子

### 【2】 フレッシュドクター若手招待講演

フレッシュドクターセッションでは、2025年3月に博士号を取得したばかりの、まさに“フレッシュドクター”たち(写真2)による、研究成果の披露が行われました。下記その4件の発表でした。皆さんおめでとうございます！

1. 高橋善樹(三菱電機) 「ミリ波レーダにおける空間分解能向上技術に関する研究」
2. 松田 暁(新潟大学) 「海洋レーダにおけるHough変換を用いた航空目標検出に関する検討」
3. Yue Cui(東北大学) 「Research of Low Loss Intelligent Reflecting Surface Based on Liquid Crystal」
4. Kevin Kipruto Mutai(東北大学) 「Study on Leaky-Wave Antennas for Imaging Applications」



写真2 左:4名フレッシュドクター達  
右:A・P研究会委員長 榊原 久二男教授

### 【3】 チュートリアル講演

チュートリアル講演では、仙台高等専門学校の園田潤教授(写真3)が「先進的な災害捜索とインフラ点検のための地中レーダロボット～GNSSやLiDARによる自動走行と4G/5G移動通信やLEO衛星通信による遠隔操作～」と題し、空洞や亀裂の点検に有効な地中レーダの自動化に関する課題を背景に、GNSS・LiDARによる自動走行や4G/5G・LEO衛星通信による遠隔操作機能を備えた地中レーダロボットの事例や技術動向を詳しく説明されました。



写真3 仙台高専 園田 潤教授の講演

### 【4】 歴史チュートリアルワークショップ

歴史チュートリアルワークショップにて、放送衛星システム株式会社(B-SAT)の正源和義氏(写真4)が、「地上放送アンテナと衛星放送アンテナの歴史」と題する講演を行いました。ちょうどこの原稿を執筆している本日2025年3月22日は、ラジオ放送100周年にあたる記念すべき日でもあります。

講演ではまず、元NHKの故・遠藤敬二氏のご功績に触れた後、地上放送と1940年の“幻の東京オリンピック”，地上放送アンテナの発展、さらには衛星放送および衛星放送アンテナの開発技術について、時代を追って詳しく紹介されました。また、東京タワーおよび東京スカイツリーの建設経緯と、それぞれに搭載されたアンテナの特性にも紹介され、若手技術者からベテランのアンテナ技術者まで幅広い聴衆を惹きつける講演となりました。



写真4 左: B-SAT 正源 和義氏  
中: A・P研歴史委員会委員長 山口 良氏  
右:A・P研究会委員長 榊原 久二男教授

## 【5】A・P研／IEEE AP-S Tokyo Chapter共催特別講演

秋田県立大学戸花照雄先生(写真5)がグラウンドスロットと伝送線路の電磁結合を用いた無線接続の研究についてご講演を行いました。

## 【6】副委員長の戯言

### ◆ 走行中にこまちとはやぶさの連結が分離してしまうこと

先日、また走行中の「こまち」と「はやぶさ」が連結状態を失うという、極めてまれな事象が発生しました。新幹線は今や、移動のインフラとして私たちの日常生活に欠かせない存在です。その新幹線で、走行中に車両が分離されるという出来事は、機器の設計的課題なのか、あるいは技術力の継承不足なのか、日本中に波紋を広げたように思います。

このニュースを再び目にしたとき、ふと教育現場のことが頭に浮かびました。通信を学ぶ学生が、オシロスコープの使い方が分からない、テスターって何？と戸惑っている場面に、私自身何度も出くわしたことがあります。「技術立国・日本」を支えてきたものは、現場の確かな知識と手技でした。それがいま、静かに揺らぎ始めているのかもしれない。新幹線の分離トラブルは、単なる機械の話ではなく、ものづくりの“根っこ”を再確認すべき時が来ているという警鐘にも思えたのでした。

### ◆ 秋田の伝統文化“なまはげ”

藁を衣装とし、顔は赤や青などさまざま(写真6)、名前にはなぜかふりがながついている——そんな「なまはげ」は、秋田県男鹿半島に伝わる伝統的な民俗行事です。この行事は毎年大晦日の夜に行われ、鬼のような面をかぶり、藁装束をまとった若者たちが、「泣ぐ子はいねが」「怠け者はいねが」と叫びながら各家庭を訪ね歩きます。

このなまはげの様子は、毎年お正月の時期になると東北地方のテレビ放送などでも紹介され、子どもたちが声をかけられて大泣きするシーンが非常に印象に残っています。それが、一年の無事と健康を願う、大切な行事であることを、あらためて知ることができました。

### ◆ 懇親会を楽しんでいる学生

最近、学生の懇親会への参加が少なくなってきました。特に、狭い居酒屋での懇親会は苦手と感じる学生が多いようです。しかし今回は、そんな中でもとても楽しんでくれた学生たちの姿が見られました！（写真7）。



写真5 左：秋田県立大学 戸花 照雄先生  
中：IEEE AP-S Tokyo Chapter Chair 高橋 徹氏  
右：A・P研究会委員長 榊原 久二男教授



写真6 なまはげが出没した居酒屋



写真7 懇親会を楽しんでいる学生達

## 〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 袁 巧微（東北工業大学）

E-mail: ap\_ac-chair@mail.ieice.org (A・P研執行部のメールアドレス)

AP-NET: A・P研最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はA・P研HPにて

A・P研HP: <https://www.ieice.org/cs/ap/>

